

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社

CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report



美ら島のために、美ら島とともに
それが沖縄コカ・コーラボトリングの想いです。

目次

contents

・目次	P1
・トップメッセージ	P2
・経営理念	P3
・大切に守りたい わした島の豊かな自然(環境理念・環境方針)	P4
1.お客様に満足を	P5~8
・お客様の期待に応えるために	
・マネジメントシステム「KORE」	
・正しい知識・製品情報の提供	
・浦添工場の取組み	
2.地域社会と共に歩む	P9~23
・「森」と「水」の大切さを学ぶ環境教育	
・ヤンバルクイナの住む森の水資源保護活動	
・「い・ろ・は・す」水資源保全プロジェクト	
・自治体と協働で取り組む環境活動	
・明日につながる環境推進活動	
・環境に配慮したもののづくりへのチャレンジ!!	
・地域に貢献する自動販売機	
・次世代を担う沖縄の子どもたちを応援!!	
・スポーツも!イベントも!笑顔が生まれる時を心から応援	
・地域に寄り添って...	
・会社概要	P24
・日本のコカ・コーラシステム	P25
・グループ会社紹介	P26
・創立 50 年のあゆみ	P27~30
・沖縄の魅力を発信! 観光ポスターギャラリー	P31~32

2018年度 CSRレポートについて

編集方針について

本レポートはこれまで取組んだ内容や活動結果から主要なものを報告しています。コカ・コーラシステムが、世界的に推進する活動や日本国内で行っている活動を紹介するとともに、当社の CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に対する取り組みを掲載し、持続可能な活動に繋げることを目的に発行しています。

対象期間・対象範囲

期 間：2017 年 6 月～2018 年 5 月末

範 囲：沖縄コカ・コーラボトリング株式会社、グループ会社

「ワシタ チム グクル」の精神で地元で根ざし、 県民の皆様へ信頼され、親しまれて成長する企業をめざします。



2018年2月22日、当社は創立50周年を迎えました。

50周年を迎えての想いは「感謝」です。沖縄県を販売地域として、浦添市に本社及び工場を置き、50年間県民の皆さまにご愛飲いただき、ここまで成長して参りました。

これも偏に、県民の皆さまをはじめ、お取引先様、自治体・関係団体、そして多くの企業の方々に様々な形でご協力いただき、そのご支援とご愛顧の賜物であると、改めまして心より厚く御礼申し上げます。

今後も、市場環境の変化に柔軟に対応し、県内での事業活動を継続的に行なうため、より一層経営を安定させ、経営理念に掲げております「地域社会と共に歩む」を具現化し、企業市民としての責務を果たして参る所存です。

事業活動におきましては「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」に充分配慮した経営基盤の構築を目指します。法令遵守(コンプライアンス)は勿論、労働環境の改善、消費者対応、環境問題への配慮、地域社会貢献などを通して、県民の皆さまのご期待に応えられるよう日々取り組んでおります。

さらに、沖縄県でのモノづくりを通して、これからも製品の原材料・資材の調達は、地元企業の県産品を可能な限り採用し、県経済の発展にも寄与して参ります。

また、「次世代の育成活動」も継続的におこない、これからも皆さまに支持される企業に成長することで、県民の皆さまに貢献して参ります。

引き続き皆さまの変わらぬご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社
代表取締役社長 城 英俊

経営理念

ワンタチムグクル

私達の経営理念

お客様に満足を

私達は、お客様を最優先に考え、満足を提供し会社の信頼を得ます。

地域社会と共に歩む

私達は、企業の安定成長をはかり、地域社会の繁栄に貢献します。

働きがいのある会社に

私達は、健康で明るく生き活きた働きがいのある会社になります。

社 是

誠を尽くす

行動規範

- ・さわやかな挨拶をしよう。
- ・円滑なコミュニケーションをしよう。
- ・自己啓発をしよう。
- ・積極的にチャレンジしよう。
- ・問題意識を持って行動しよう。
- ・変化に素早く対応しよう。
- ・感謝の心で接しよう。





わたしたちの環境理念

沖縄コカ・コーラボトリングでは、コカ・コーラシステム的环境方針に従い、コカ・コーラシステム各社とともに、地域規模の環境保全の重要性を認識し、地域における環境の継続的な改善を推進します。

わたしたちの環境方針



沖縄コカ・コーラボトリングでは、当社の事業活動が環境に与える影響を理解し、持続的な社会を目指すため、環境マネジメントシステムを導入し、全従業員参加のもとに以下の施策を中心に取組みを行い、環境目的・目標を設定するとともに、定期的な見直しを図ります。

- 当社に適用される環境関連法規制及び関連する会社の行った協定、約束について厳守します。
- 沖縄県において、持続可能な地域社会の構築を目指します。
- 当社の日々の活動で発生する環境負荷を低減するような活動に取り組めます。
- この方針を当社で働く全従業員に周知し、継続して事業を展開する地域社会の経済発展を促進する取組みを行います。

わたしたちの中期数値目標

- 2021年までにCO²排出量を2016年度比1%減らします。



2017年5月制定

1.お客様に満足を

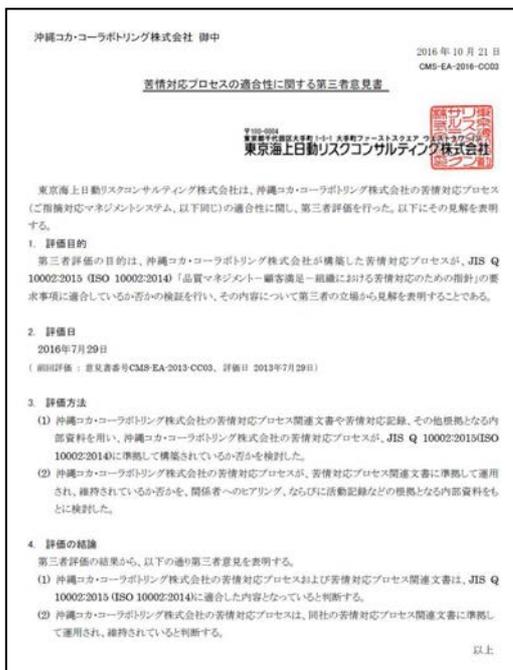
お客様の期待に応えるために

お客様満足のための基本方針

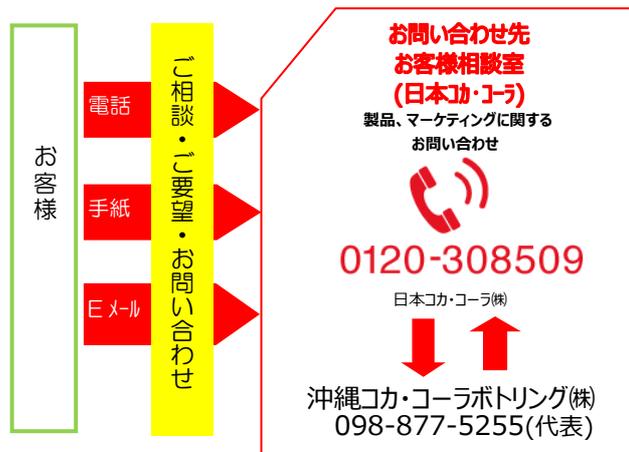
私たち沖縄コカ・コーラボトリング株式会社は、あらゆる企業活動を通して地域の皆様に「爽やかさと潤い」をお届けしたいと考えております。お客様とのふれあいを大切にし、安全で安心できる製品、サービスを提供するとともに、お客様の声を積極的に企業活動に活かし、行動指針に基づきお客様から信頼される企業を目指して参ります。

行動指針

- ・お客様からの声を真摯に受け止め、迅速且つ適切に誠意を持って対応します。
- ・お客様からのご指摘・ご要望を重要なコミュニケーションの機会ととらえ、正確な情報収集と積極的な情報提供をおこないます。
- ・お客様とのコミュニケーションを大切にし、お客様の声を積極的に企業活動に活かし、コカ・コーラファンになって頂ける企業を目指していきます。
- ・お客様からのご意見は貴重なものとして社内で共有し、製品・サービスの向上に反映させます。
- ・お客様の権利を保護するため、関連する法規及び社内の自主基準を遵守いたします。



お客様対応フロー図



ご指摘対応プロセスの適合性に関する第三者意見書

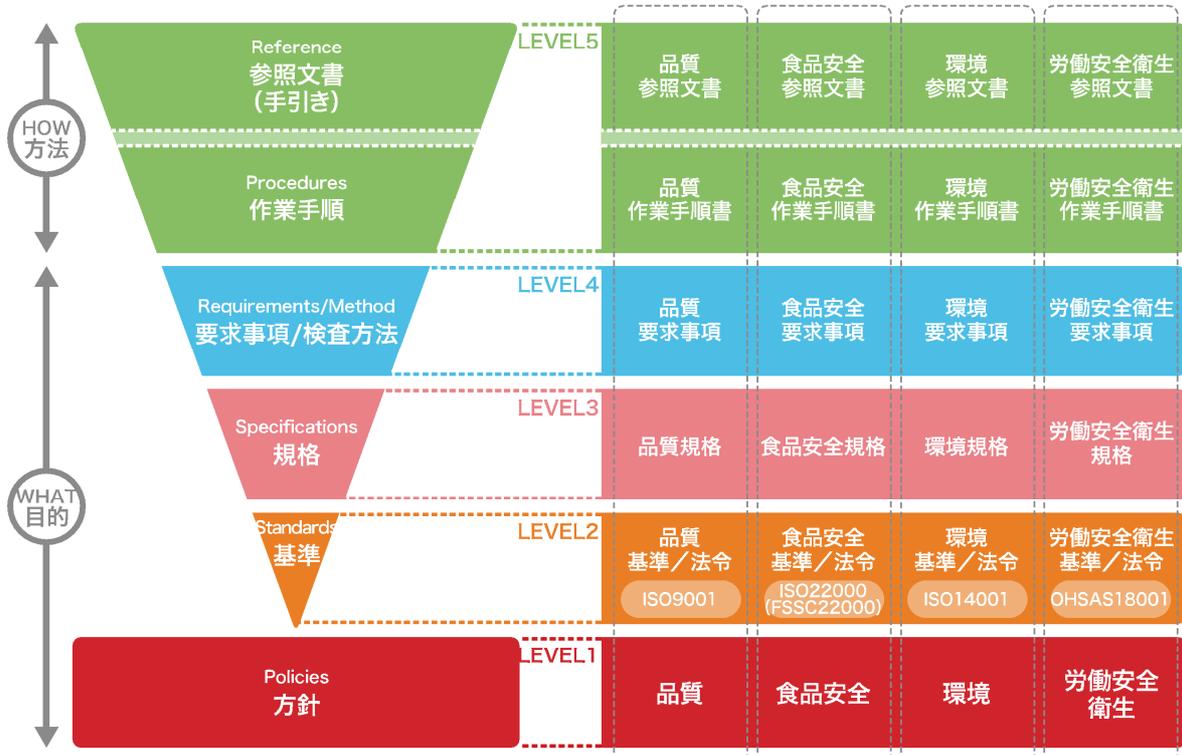
マネジメントシステム「KORE」

コカ・コーラシステムは、2010年より世界共通で「KORE(Coca-Cola Operation Requirements)」[※]と呼ばれる独自のマネジメントシステムでオペレーション管理を行っています。「KORE」は原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経てお客様に製品が届くまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自ら課す内容となっています。オペレーションのチェック機能は、審査登録機関による各要求事項へのパフォーマンス測定が少なくとも年1回行われており、社外第三者からの客観的評価が加わることでマネジメントシステムの公明・公正な運用が保証されています。

※「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているザ コカ・コーラ カンパニーの略称

KORE

「KORE」マネジメントシステムフレームワーク図



1.お客様に満足を

正しい知識・製品情報の提供

清涼飲料メーカーとしてお客様の健康への関心に応える責任を認識し、健康的な生活習慣に役立つ正しい知識の提供と理解の促進に努めています。

製品の成分に関する情報については、製品パッケージやWEBサイトなどを通じて情報を公開し、お客様に分かりやすくお伝えできるよう工夫と改善を重ねています。

2012年からはお客様がご自身のニーズに合った製品を選択する際の参考情報として、ほぼすべてのコカ・コーラ社製品パッケージの前面にカロリー情報を表示しています。



前面のカロリー表示

栄養成分表示(100g当り)
エネルギー 35kcal、たんぱく質 0.6g、脂質 0.5g、炭水化物 6.9g、ナトリウム 53mg

パッケージ上での製品情報公開

ひと目でわかる!

トクホ & 機能性表示食品

※トクホとは、特定保健用食品のことです。

トクホ(特定保健用食品)と機能性表示食品は、申請や届出の流れや表示方法に違いがありますが、科学的な根拠に基づいたデータと安全性試験をもとに機能の表示が許された食品です。

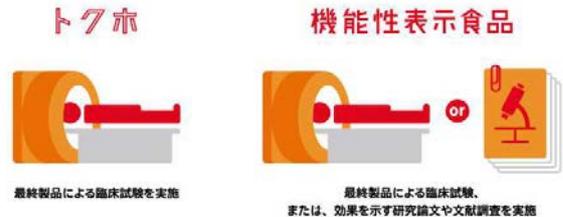
1

「トクホ」や「機能性表示食品」の製品にはパッケージに記載があります。



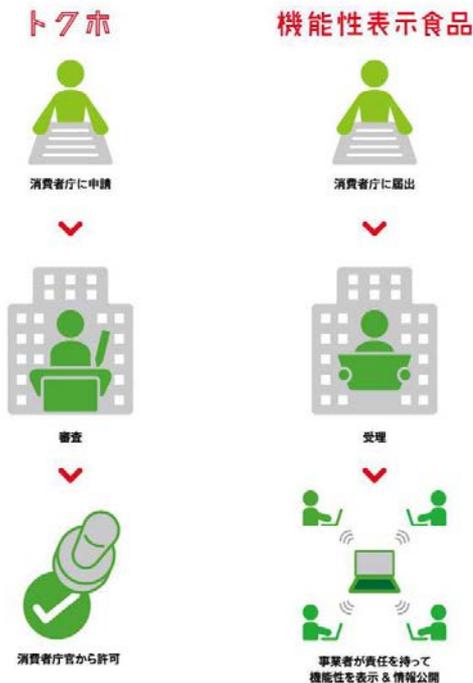
2

どちらも科学的根拠によって、効果の有効性や安全性が確認されています。



3

どちらも消費者庁への申請/届出がなされており、信頼性が確保されています。



4

現在、販売されている製品の主な効果・効能の例



現在許可されているのは、中性脂肪、血圧、血糖値、コレステロール、糖、整腸、骨、ミネラル、肌などに役立つ食品。「おなかの調子を整える」「血圧が高めの方に」「カルシウムの吸収を促進」などと表記されています。

左記以外で届出があるのは、目、関節、精神的ストレス、身体的疲労、記憶力、体温、肝臓、筋肉、腰などに役立つ食品。「ヒント調節サポート」「緊張感の軽減」「記憶力の維持」などと表示されています。

1.お客様に満足を

浦添工場の取組み (品質・労働安全・環境)



国際基準への対応
 ・品質、食品安全、労働安全、環境の4側面のISOを取得。

コカ・コーラシステム基準への対応
 ・ISOの基準よりもさらに厳しい「KORE」: 要求事項 (世界共通の「コ・コー」要求事項) に沿って製造を行っています。

労働安全衛生 決意表明
 安全に対する思いを伝える 従業員が
 気づき考え 不安全行動をしない
 仕組みと仕掛けを整備する。



出荷前官能検査も世界基準に沿って実施



ISO9001



FSSC22000



OHSAS18001



ISO14001

ゼロエミッションに挑戦!

おいしいひとときを彩るコーヒーやお茶の製造過程で生まれる「コーヒーかす」や「茶かす」を農作物の生育に使う堆肥として、ほぼ 100%再資源化を継続しています。



コーヒーかす



茶かす



堆肥

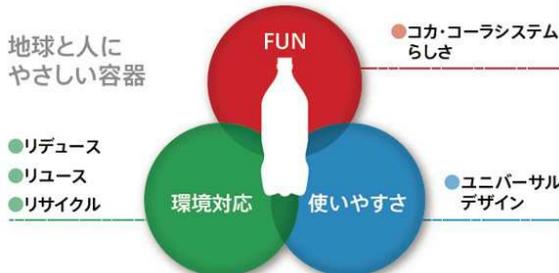
自動販売機の適正処理とリサイクル

自動販売機の廃棄・リサイクルは、法律に基づき「自動販売機マニフェスト」を運用。フロンガス回収や蛍光灯に含まれる有害物質を適正処理するなど、環境負荷の軽減に努めています。



サステナブル・パッケージ

コカ・コーラシステムでは、製品パッケージは、環境にやさしいと同時に使いやすくなければならないと考え、これを「サステナブル・パッケージ(持続可能な容器)」と呼んでいます。また、コカ・コーラシステムならではの、FUN(楽しさ)が感じられる製品パッケージ開発も推進しています。「使いやすさ」「環境対応」「FUN」の3拍子が揃った製品パッケージが私たちの目指す「サステナブル・パッケージ」です。



植物由来原料(プラントボトル)



「プラントボトル」を使用した「い・ろ・は・す」のボトル

2.地域社会と共に歩む

「森」と「水」の大切さを学ぶ環境教育

コカ・コーラシステムでは次世代の環境を担う子どもたちを対象に、水の源である森林について「知る」、森林の大切さを「学ぶ」、植樹・育樹を通して「体験する」ことで、地域・市民としての意識を高め、自然保護の重要性を理解してもらうことを目的として環境教育活動に取り組んでいます。当社は2006年から沖縄本島最大の水資源であるやんばるエリアにて、行政・地域ボランティアの皆さんと一緒に継続して活動を行ない、今年で12年目になります。

コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト開催実績

開催時期	開催地	参加人数	活動	作業内容
2017年 7月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	250人	育樹	除草・肥料入
2016年 7月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	120人	育樹	除草・肥料入
2015年12月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	15人	育樹	除草・肥料入
2015年 7月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	104人	育樹	除草・肥料入
2014年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	197人	植樹	つばきの種・苗植え(苗200本・種2,000粒) シークワサー剪定肥料入れ
2014年 8月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	150人	育樹	肥料入・散水
2013年12月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	310人	植樹	つばきの種・苗植え(苗200本・種2,000粒) シークワサー剪定肥料入れ
2013年 8月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	100人	育樹	枝の剪定・水かけ・除草・肥料入
2012年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	411人	植樹	つばきの種植え、苗植え(種植え1200粒、植樹小苗30本、 植樹大苗15本数、次年度の苗作り800粒)、除草と追肥、 シークワサー除草と追肥
2012年 9月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	50人	育樹	除草・肥料入
2011年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	400人	植樹	つばきの種・苗植え(苗45本・種2000粒) 肥料入・シークワサー剪定・除草
2011年 6月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	140人	育樹	除草・肥料入
2010年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	約500人	植樹	つばき(苗300本・種800粒)
2009年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	約500人	植樹	つばき・シークワサー(約500本)
2009年11月	国頭村 くいパークゴルフ場周辺	約150人	育樹	除草・肥料入
2008年11月	国頭村 くいパークゴルフ場周辺	約400人	植樹	ハイビスカス・桜(約600本)
2007年11月	国頭村 県道2号線入口付近	約400人	植樹	ヒカゲヘゴ(約500本)
2007年 6月	国頭村 やんばる学びの森周辺	約200人	育樹	草刈り
2006年11月	国頭村 やんばる学びの森周辺	約500人	植樹	フヨウ・琉球松・他(約2,000本)

第19回 2017森に学ぼうプロジェクト

(大宜味村 大保ダム)



2.地域社会と共に歩む

ヤンバルクイナの住む森の水資源保護活動

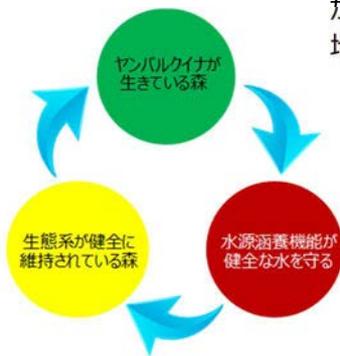


購入いただいた1本からクイナ保護活動へ

自動販売機を活用し、ヤンバルクイナの保護活動を目指す

当社は2007年より、自動販売機の売上金の一部を「NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄」のヤンバルクイナ保護活動に寄付する取り組みを開始し、2010年から2016年までの期間、ヤンバルクイナの生息域にある既存のコカ・コーラ自動販売機に集音マイクを設置し、集めた音声データを沖縄高等専門学校の協力で電子解析処理を行ったところ、ヤンバルクイナの鳴き声の記録が確認されました。

ヤンバルクイナの貴重な鳴き声のデータは、その後もどうぶつたちの病院沖縄で解析が進められており、今後ヤンバルクイナの行動パターンや生態の把握、さらには繁殖地域の特定が期待されています。



ヤンバルクイナは、世界で沖縄本島北部の山原(やんばる)地域のみで生息する飛べない鳥で、国の天然記念物に指定されています。日本の鳥類で最も絶滅が迫っている種のひとつで、2006年には環境省レッドリストに、最も絶滅のおそれの高い「絶滅危惧種 IA 種」として登録。集落周辺に現れたヤンバルクイナが交通事故に遭うケースも増えており環境省那覇自然環境事務所は2010年6月に非常事態宣言を発令し、環境省、県、地方自治体、NPO 団体等の関係者による保護・対策が進められています。



Message from...

NPO法人どうぶつたちの病院沖縄 副理事長 金城 道男 氏

「ハイ、こちら NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄です。どうされましたか？」
「ヤンバルクイナを道路で保護したのですがどうしたらいいですか？」とヤンバルクイナダイヤルに連絡が入りました。救護場所は県道 2 号線や県道 70 号線が多く、そのため緊急連絡用に連絡先が記載された電柱看板があり、それを見ての問い合わせでした。

琉球諸島は大陸から切り離されたとき、ヤマネコやキツネ、イタチといった食肉目が生息して無かったことから翼を持つ鳥類であるにも関わらず無飛翔性で地上を歩き回る鳥類、ヤンバルクイナが誕生したと考えられています。しかし、現代では人間活動との軋轢が生じ、捨てられたイヌやネコが襲い、道路を歩いて横断する事で交通事故が発生、幸いにも命が助かった場合のみ冒頭のように我々の NPO 法人与自然省が連携して救護にあたっています。また他の鳥類、ノグチゲラやアカショウビンもガラス窓にぶつかり傷を負い、釣り針を飲み込んだチドリ仲間や釣り糸が絡まったクロツラヘラサギなど、我々の NPO 法人には1年間で150個体以上もの鳥類や哺乳類が運び込まれます。その後リハビリを施し、野生へ帰しています。

それら野生動物救護やリハビリなどの費用は、その殆どが自主財源で行っています。自然界の生き物には飼い主がいません。したがって請求相手が存在しないため請求書が出せないのです。私たちの野生動物救護活動の支えとして、ヤンバルクイナ支援自動販売機による寄付があります。2007年にスタートし、2017年までの11年間で517万円余りの寄付金を頂きました。1本当たり数円ですが「塵も積もれば山となる」のことわざ通り、御社を始め、自動販売機のオーナー様、飲み物を購入して頂きました皆様のおかげだと大変感謝申し上げます。

ヤンバルクイナを始めとする野生動物救護活動や野生復帰できない個体の終生飼育など日々切れ目無く続いております。今後とも皆様のご理解と御協力をよろしくお願い致します。

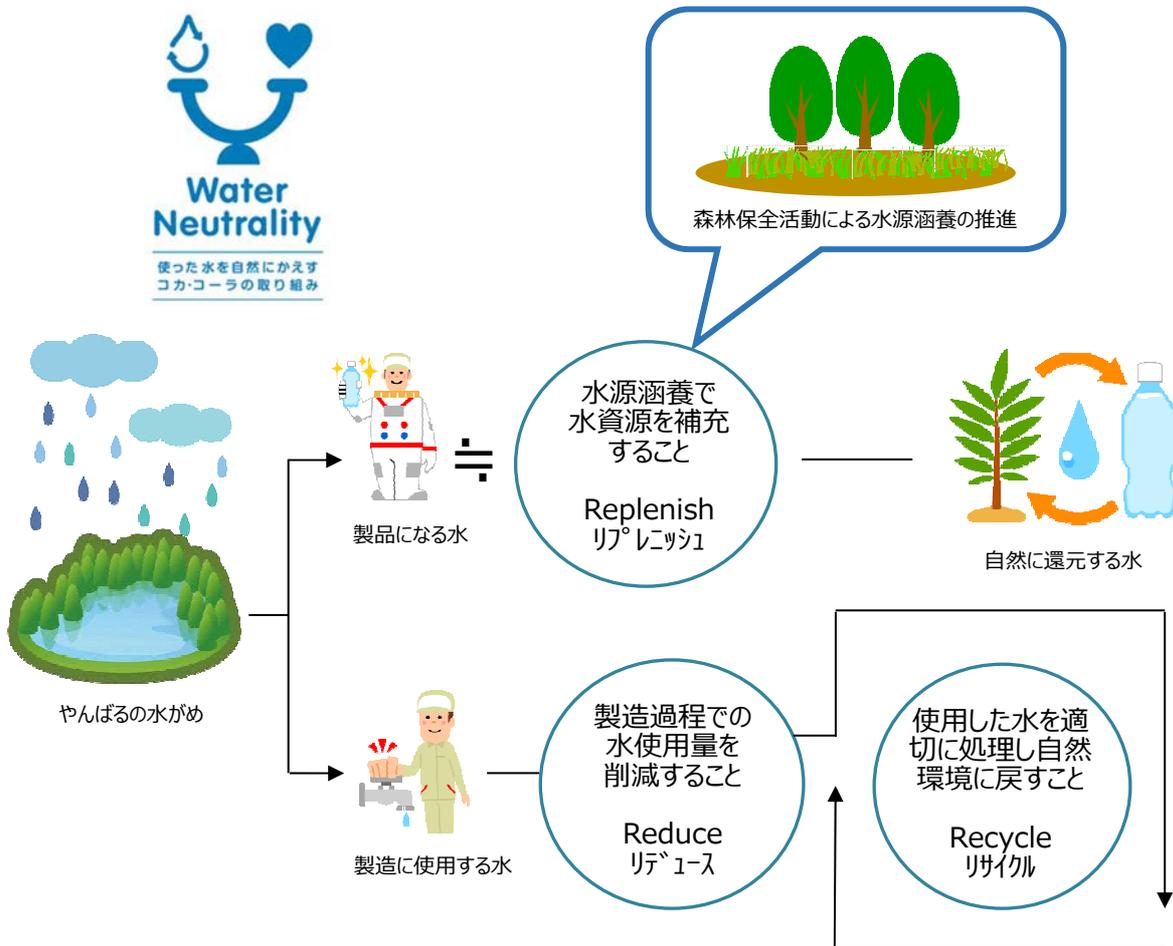
水資源保護

コカ・コーラシステムでは、世界各地で清涼飲料を製造・販売する企業の社会的責任として、水資源の持続的な活用に向けたプロジェクトに取り組んでいます。これは、取水管理、水質管理、効率的活用、排水管理、水資源保護の5つの側面から水資源を管理するものです。当社は、本島北部(やんばる)のダムから取水しており、「製造に使用する水」と「製品になる水」の2つに大きく分類し、水資源の保護に取り組んでいます。

「製造に使用する水」は工場内で効率よく使用した後、厳格な基準に基づき浄化し、施設外に排出しています。同時に、取水地の水源涵養機能の維持に資する森林保全活動等の取り組みを推進し、「製品になる水」を育んでいます。

Water Neutrality(ウォーター・ニュートラリティー)

水資源保護の一環として製品をつくるために使った分の水を自然にかえす「Water Neutrality」を推進しています。この取り組みは、2020年までに全世界で製品および製造で使用した量と同等量の水を自然に還元することを目指しています。水源エリアの自然環境が持続的に水を育み蓄える力を持ち続けていけるよう、その土地や自然環境の特徴を踏まえながら地域や専門家の方々と力を合わせてこの活動に取り組んでいます。



水資源を守り、大切に水を使って、キレイに戻す。

コカ・コーラシステムでは、日本全国で水資源保護に取り組んでいます。

目標は、製品及び製造で使った量と同じ量を自然に還元すること。

つまり、“WATER NEUTRALITY(ウォーター・ニュートラリティー)”の実現です。

工場の中から地域の自然まで、私たちの活動は広がっています。

2.地域社会と共に歩む

「い・ろ・は・す」水資源保全プロジェクト ～ 首里城公園友の会を支援 ～

「い・ろ・は・す」の売上金の一部は、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団を通じて、日本の各地で水資源保全活動を行っている団体に寄付され、その活動を支援しています。沖縄では、「首里城公園友の会」の「イヌマキ育樹祭」を支援。社員有志のボランティアにより、育樹活動にも参加しました。



Message from...

ヤンバルの緑化を目指して

首里城公園友の会
副会長 高良 倉吉 氏

50年、100年先の首里城の大修理に使うに欲しいという目的で、首里城公園友の会はヤンバルの森でイヌマキ（方言名：チャーギ）を育てています。この事業に対して、「い・ろ・は・す」水資源保全プロジェクトから寄付金をいただいています。さらに、沖縄コカ・コーラボトリングの社員の皆さんは、ボランティアとして育樹祭にも大勢参加し、汗を流していただいています。

イヌマキを育てている辺野喜の森は、じつは恵まれた土地ではありません。近くにある辺野喜ダムを建設した際に、大量の石まじりの土が掘り出されました。その土を運んで山中の谷間を埋めたのです。20年ほど前に、私たちがイヌマキを植樹したのがその場所で、赤土と石だらけの荒涼たる風景でした。

その場所にイヌマキを植えて、緑あふれる場所にしたいと私たちは考えたのです。イヌマキを植えることのみが目的であるならば、肥沃な土地を選んだほうが賢明です。しかし、私たちは、荒れた土地をイヌマキの植樹と育樹を通じて緑の空間にしたいと決意したのです。イヌマキがヤンバルの緑化につながる、と考えたのです。その思いが、私たち首里城公園友の会の活動の土台です。

首里城公園友の会 「イヌマキ育樹祭」に参加



自治体と協働で取り組む環境活動

国頭村と水源保全活動協定を締結

国頭村は県内有数の水源域となる「やんばるの森」を育み、県民の水がめを保有する地域です。当社では、その森林が育んだ水を原材料として清涼飲料水を製造しています。飲料メーカーとして、水は最も重要な資源です。この大切な水を持続的に保つため、2006年から継続して本島北部のダム周辺にて、水源保全活動を主体とした植樹・育樹活動を行っています。

また、絶滅危惧種で国の天然記念物に指定されている、ヤンバルクイナを保護する活動として、ヤンバルクイナ保護支援自販機の設置についても、村の協力をいただき取り組んでいます。

2018年より新たに水源保全活動の協定を締結し、森林保護活動を主体とした環境保全・保護活動を通して、「やんばるの森」の水源涵養機能と生物多様性の維持につなげていきます。



国頭村役場

Message from...

国頭村長 宮城 久和 氏

国頭村は、県内市町村で5番目に広大な面積を有する村で、村土の約84パーセントを森林が占めております。この森は「やんばるの森」と呼ばれる国内唯一の亜熱帯照葉樹林で、ヤンバルクイナやノグチゲラなど、この場所だけに生息する固有種や、生物多様性の豊かさから、平成28年9月に「やんばる国立公園」に指定されました。さらに世界自然遺産への登録を目指しております。

そのなかで国頭村では「森と水とやすらぎの里 くにがみ」をキャッチフレーズに、これまで村内の森林整備、水源確保に関する整備、環境負荷の低減推進などの様々な森林環境保全に関する取り組みを実施してまいりました。

現在、国頭村内には辺野喜ダム、普久川ダム、安波ダムの3つのダムがあり、水資源を本島中南部に供給するなど、沖縄本島の水がめとして重要な役割を担っております。しかしながら、これからも水資源の供給を維持していくためには、自然環境の保護や水源確保に関わる森林整備や維持管理など、国頭村として取り組まなければならない様々な課題があるのが現状です。

このような課題があるなかで、今回「国頭村水源保全活動協定」を結び、本村の自然保護、水源保護にご支援、ご協力賜りますことに感謝申し上げます。支援頂く資金を、水源かん養機能の維持や自然環境の保全等に有効活用させて頂き、国頭村はこれからも沖縄本島の水源地域として重要な役割を担っていく所存であり、沖縄コカ・コーラボトリング様には今後もご支援、ご協力を賜り、保全活動に取り組んでいきたいと考えております

2.地域社会と共に歩む

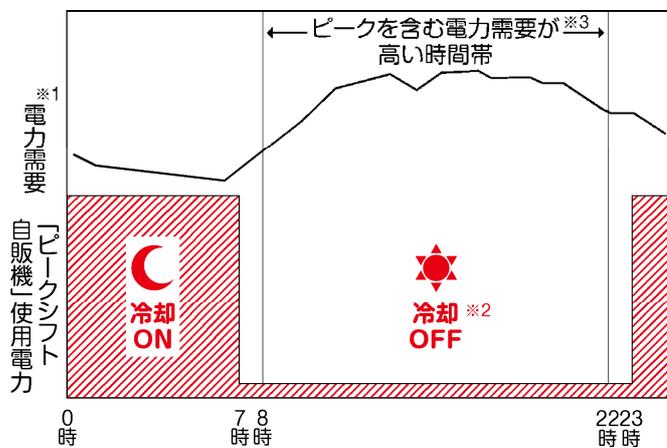
明日につながる環境推進活動

地球温暖化対策

ピークシフト自販機の展開

「ピークシフト自販機」とは、電力使用がピークとなる時間帯に冷却運転を停止し、最長 16 時間冷たい製品を販売できる超省エネ型の自動販売機です。真空断熱材の採用により保冷機能を高めることで、冷却のための電力使用を日中から夜間にシフト。日中の消費電力を 95%（※）削減できるようになりました。

この「ピークシフト自販機」は、2013 年度の「省エネ大賞」で最高賞である経済産業大臣を受賞。「第 10 回エコプロダクツ大賞」で推進協議会特別賞(節電優秀賞)を受賞しました。



ハイブリッド車輛の導入拡大

当社では、物流拠点の統合や配送ルートの見直しなどによる輸送の効率化やエコドライブの推進・徹底を図ることによって、燃費向上と CO2 排出量削減に取り組んでいます。また、2009 年よりハイブリッド車両等の環境配慮型車両を導入しています。



グリーン調達製品(再生品)の活用

ユニフォームや空容器回収ボックスなどの販売資材、ボールペンやバインダーなどの広告資材(ノベルティー)に、PET ボトルのリサイクル製品を活用しています。



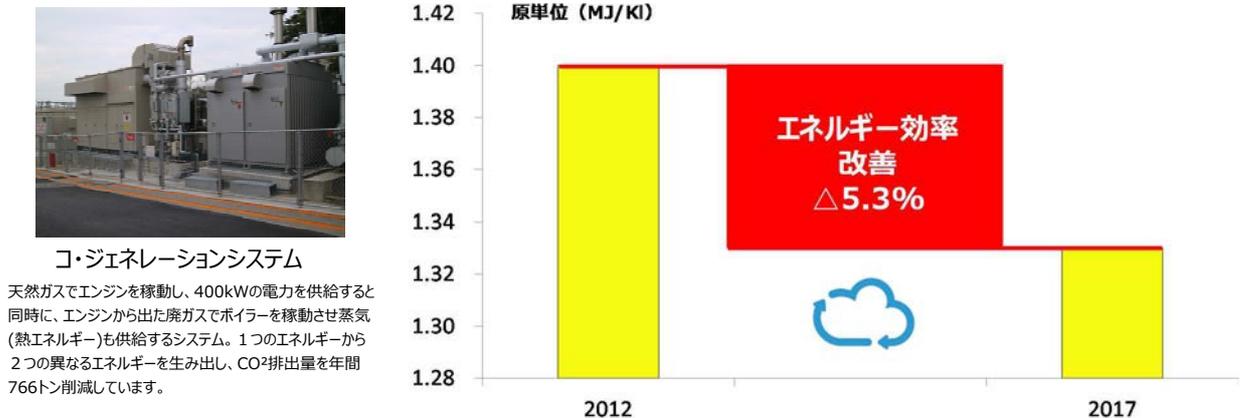
製造のユニフォーム 営業のユニフォーム

環境に配慮した ものづくりへのチャレンジ!!

水使用効率2012年比で27.1%改善



エネルギー効率2012年比で5.3%改善



CO₂ 排出削減効率2012年比で16.8%改善



2.地域社会と共に歩む

地域に貢献する自動販売機

地域支援型

自動販売機の売上の一部が、イベント・寄付・保護活動に役立てられます。
地域のスポーツ・観光・まちづくり・環境保全・イベント・福祉等を支援



地域貢献型自動販売機による 地域支援の仕組み

地域貢献型自動販売機で購入



売上げの一部を活動資金として提供



おもな地域貢献型自動販売機名称	台数
一般社団法人九州沖縄道の駅ネットワーク	5台
浦添市社会福祉協議会支援金	4台
NPO法人 チーム沖縄	2台
沖共募宜野湾市共同募金委員会	6台
(公財) 沖縄県交通安全協会連合会	9台
沖縄県手をつなぐ育成会	1台
沖縄県サッカー協会支援金	1台
沖縄県産婦人科医会事務局	3台
かりゆしFC支援金	9台
国頭村企画商工観光課	2台
グリーンベルト支援金	4台
合同会社琉球インターナショナル	15台
サンゴ植付業務委託料	3台
全国肢体不自由児者父母の会連合会	37台
全島エイサー支援金	30台
ちやたん海のライフセービングクラブ	5台
豊見城龍船協会	7台
日本赤十字社 沖縄県支部	20台
ピンクリボン支援金	13台
フットサル支援金	2台
ベトリボンプロジェクト基金	7台
ボウリング場協会支援金	5台
メッシュサポート支援金	38台
ヤンバルクイナ保護活動支援金	40台
夢の貯金箱支援金	5台
琉球水難救済会支援金	3台

災害対応型

災害時の避難者へフリードリンクで飲料を提供します。
県内の各自治体と災害時協定を締結し避難所となる施設等に設置しています。

省エネ対応型

省エネ対応型は、災害等で電力供給量が低下した時にも力を発揮します。真夏の日中等の電力消費量ピーク時を避け、夜間電力で庫内を冷却します。



災害対応型自動販売機による地域支援の仕組み



自治体関連施設における災害対応型自動販売機の設置状況

地域	台数	設置先	地域	台数	設置先
那覇市	1台	那覇市社会福祉センター	恩納村	2台	本庁舎・多目的運動場
宜野湾市	1台	本庁舎	宜野座村	1台	本庁舎
浦添市	3台	本庁舎中庭・運動公園・浦添消防署内間出張所	読谷村	2台	本庁舎・社会福祉協議会
糸満市	1台	本庁舎	嘉手納町	1台	本庁舎
沖縄市	1台	本庁舎	北谷町	1台	老人福祉センター
豊見城市	1台	中央公民館	中城村	1台	本庁舎
南城市	1台	本庁舎	与那原町	1台	本庁舎
大宜味村	1台	本庁舎	南風原町	1台	本庁舎
東村	1台	本庁舎			
今帰仁村	1台	本庁舎			

2018年5月末現在

2.地域社会と共に歩む

次世代を担う沖縄の子どもたちを応援!!

奨学支援事業

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団では、1966年より人物・学力ともに優れ、経済上の理由で大学進学が困難な事情にある学生に対し、在学期間中の教育支援として、返済義務のない奨学金を支給しています。沖縄支部では、1973年より独自の沖縄コカ・コーラ採用枠を増設し、これまでに6千万円余(本部・支部合算)を支給し、96名の卒業生を送り出しました。平成30年度は14名の支援がスタートしています。



前列左より、教育支援課班長 國吉様、金城 美起さん、高橋会長、任田 くるみさん、上原 純一さん
後列左より、県立学校教育課 仲地様、総務部石川



高橋会長より証書・記念品授与

**返済義務のない奨学金で
夢の実現を**

Message from...

祝辞 沖縄県教育委員会
教育長 平敷 昭人 氏

平素より、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団沖縄支部の奨学支援事業をはじめとする教育に対する様々な社会貢献を続けてこられたことに対し、厚く御礼を申し上げます。

貴財団におかれましては、大学進学率が日本国内で平均25%にも満たない時代であった1966年より開始された日本コカ・コーラボトラーズ育英会の奨学支援事業は、これまでに2千名を超える多くの大学生に奨学金が授与されている一方で、沖縄コカ・コーラにおいては、支部独自の採用枠を設けていただき、本部採用とは別に1973年よりこれまで65名の大学生に対し3千万円超の給付型奨学金により若者の支援を行ってこられたと伺っております。

また、「心豊かでたくましい人づくり」という財団の理念の下、環境教育やスポーツ教育など、様々な社会貢献及び人材育成事業を実施されており、貴団体の長きに渡る活動に対し、心から敬意を表します。

本年は、沖縄コカ・コーラボトリング株式会社が創立され50周年の節目と伺っております。今後とも、沖縄県の次世代育成をはじめとする奨学支援などの社会貢献活動に期待いたしますとともに、関係者の皆様のご健勝を祈念し挨拶いたします。

奨学生募集案内

当社は、1968年（昭和43年）の設立以来、沖縄県と共に発展することを念頭に、奨学支援事業を行って参りました。これからも、創立者の意思を引き継ぎ「**沖縄県の次世代育成・人材育成**」に貢献できる企業を目指していきます。

奨学生の声

●金城 美起さん

この度は公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団平成30年度奨学生の本部採用して頂き本当にありがとうございます。私がこの応募をした理由は、両親とも亡くして小学校4年生の時から高校3年生の時まで里親に育ててもらいました。高校3年生の時、愛知県の大学に進学したいと考えていた時に生活費や学費の事で誰のサポートもないままでは無理だと思い進学を諦めようとしていました。その時にクラスに掲示されたコカ・コーラの奨学生の募集要項を見てすぐさま応募しました。無事大学に合格し無事4月に大学に入学することが出来ました。それはこの奨学金のお陰でもあります。本当にありがとうございます。私の将来の夢は、地域の特産物を使った商品開発で地域に貢献出来るような人材になることです。そのためにも今の大学で学業に専念して、応援してくれている人々の期待を裏切らないように大学4年間充実した学生生活を送りたいと思います。本部採用して頂き本当にありがとうございました。そして、これからも宜しくお願い致します。

●上原 純一さん

この度は公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団平成30年度奨学生として私を採用していただき、誠にありがとうございます。私は将来、英語教師となって、沖縄の子供たちに英語を学ぶ楽しさを広めていきたいと思っています。そのために大学では、英語教育の現状を学び、子供たちの興味を引くことができ、かつ社会で活用できる英語の授業について研究していきたいと思っています。今年の春からは皆様方の支援のおかげで、経済面の心配も減り、勉学に集中することができます。また、サークル活動なども積極的に参加し、人的ネットワークも広げることができます。私自身、奨学生に選んでもらった人として、夢に向かって充実した学生生活を送り、未来の沖縄に貢献できる人間になりたいと思います。また、多くの方々に支えられ、恵まれた環境で生活できていることを忘れず、学生生活を送りたいと思います。今回奨学生に採用していただき、ありがとうございます。



●任田 くるみさん

初めての一人暮らしを通して生活スキルを磨き、勉学は基礎を怠ることなく地道に励むことを心がけたいと思っています。これまでお世話になってきた親に感謝し、図書館司書として実現したい夢のためにも、四年間の大学生活を大切にしていきたいです。

コカ・コーラ復興支援基金

コカ・コーラシステムでは、東日本大震災で被災した東北3県の高校生を対象に、米国でのホームステイ研修プログラムを実施しており、2013年は119人を送り出しました。また秋には、音楽を活動の柱とする米国の「ヤングアメリカンズ」と子どもたちが織りなす歌とダンスのショー「ヤングアメリカンズ東北ツアー2013」(実施:じぶん未来クラブ)を支援しました。当社は、コカ・コーラシステムの一員として復興を支援しています。



2.地域社会と共に歩む

コカ・コーラ環境教育賞

1994年に設立されたコカ・コーラ環境教育賞は、地域に根ざした環境ボランティア活動の助成・支援を通じた環境教育・環境保全活動の促進を目的として、国内の環境教育分野の推進に貢献しています。24回目を迎えた2017年度は81団体(活動表彰部門：45団体、次世代支援部門：36団体)の応募があり、県内からは「活動表彰部門」に大宜味村立大宜味小学校が、「次世代支援部門」には沖縄県立辺土名高等学校(大宜味村)がそれぞれ優秀賞を受賞いたしました。



大宜味小学校



辺土名高校

[県内受賞者一覧]

年度	受賞団体(個人)	賞
2004年(第11回)	那覇市立小祿小学校	主催者賞
2005年(第12回)	サンゴとブロッコリの森自然学校	環境教育賞
2006年(第13回)	沖縄県立辺土名高等学校 環境科	環境教育賞
2007年(第14回)	うるま市立宮城中学校	環境教育賞
	嘉陽 宗幸 氏	主催者賞
2008年(第15回)	国頭村立安田小学校	奨励賞
2009年(第16回)	恩納村立喜瀬武原中学校	優秀賞
	西表ヤマネクラブ	優秀賞
2010年(第17回)	沖縄県立宮古総合実業高等学校 環境班	大賞
	久米島 ホタルの会	優秀賞
2011年(第18回)	浦添市立港川小学校	大賞
2012年(第19回)	名護市立屋我地中学校	優秀賞
2013年(第20回)	白保魚漁く海保全協議会(白保中学生)	大賞
	美らくいな(国立沖縄工業高等専門学校)	優秀賞
2014年(第21回)	大宜味村立喜如嘉小学校	優秀賞
	沖縄県立八重山農林高等学校	優秀賞
2015年(第22回)	名護市立小中一貫教育校 緑風学園	優秀賞
	沖縄工業高等学校科学部環境分析班	優秀賞
2017年(第24回)	沖縄県立辺土名高等学校 環境科	優秀賞
	大宜味村立大宜味小学校	優秀賞

[活動表彰部門]

小・中学生とその指導者を対象として、地域社会に根ざした環境教育・環境保全活動の実績を顕彰します。

[次世代支援部門]

高校生、高専生及び大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援を行います。

Message from...

コカ・コーラ環境フォーラム に参加して

沖縄県立辺土名高等学校 教諭 東 電一郎 氏

北海道栗山町で行われた環境フォーラムへの参加は本校としては2回目ですが、私と生徒2人にとってはもちろん初めての経験でした。沖縄とは違った広大な大地に圧倒されながらバスにゆられ、コカ・コーラハウス雨煙別小学校に着きました。本校生徒は3年生男子と1年生女子で、普段あまり接点のない2人であったこともあり、緊張からかアイスブレイクでは元気がありませんでした。そこから、「せっかく北海道まで来たのだから、楽しんでいこう!」とはっぱをかけ、積極的に動くように仕向けました。その成果もあり、最終選考会のプレゼンテーションでは、2人が息の合った言葉の掛け合いをし、自分たちとしては満足する発表ができました。

フィールドワークでは、川の生き物の採集が印象に残っています。生まれて初めてニホンザリガニを見て、思っていたより小さいことに驚きました。他にもドジョウや小魚が色々と採れましたが、沖縄との生物相の違いを実感することができました。

行く前から楽しみにしていた食事については、予想以上で、地元の野菜を使ったスープカレーやコロッケも美味しかったし、中庭でのバーベキューは雰囲気も含め最高でした。環境フォーラム全体を通してとても印象に残っていることは、大学生ボランティアによる運営が良かったことです。大学院生や何度か経験している人は、落ち着いていて後輩をリードしていたし、初めてと思われる1・2年生あたりは一生懸命さが感じられて、とても感心しました。

最後に、このような機会を下さり、あらためまして感謝を申し上げます。本校の取り組みを全国の方々に知ってもらう機会となっただけではなく、私たちにとってかけがえのない体験となりました。

スポーツも! イベントも! 笑顔が生まれる時を心から応援



NAHA マラソン



全日本トライアスロン宮古島大会



おきなわマラソン



那覇ハーリー



沖縄全島エイサーまつり

主なスポーツイベント協賛実績

イベント名	協賛開始年	備考
NAHAマラソン	昭和60年(1985年)	第1回大会より
全日本トライアスロン宮古島大会	昭和62年(1987年)	第1回大会より
いげな88トライアスロン大会	昭和63年(1988年)	第1回大会より
なんぶトリムマラソン大会	昭和63年(1988年)	第1回大会より
中部トリムマラソン	平成元年(1989年)	第1回大会より
久米島マラソン	平成元年(1989年)	第1回大会より
おきなわマラソン	平成 5年(1993年)	第1回大会より
伊江島一周マラソン大会	平成 5年(1993年)	第1回大会より
伊平屋ムーンライトマラソン	平成 6年(1994年)	第1回大会より
あやはし海中ロードレース	平成13年(2001年)	第1回大会より
尚巴志ハーフマラソンin南城市	平成14年(2002年)	第1回大会より

主な地域イベント協賛実績

イベント名	協賛開始年	備考
沖縄全島エイサーまつり	昭和43年(1968年)	第13回大会より
那覇大綱挽(那覇まつり)	昭和46年(1971年)	第1回大会より
那覇ハーリー	昭和50年(1975年)	第1回大会より
浦添てだこまつり	昭和54年(1979年)	第1回大会より
海洋博公園花火大会	昭和54年(1979年)	第1回大会より
とみぐすく祭り	昭和56年(1981年)	第1回大会より
与那原大綱曳(与那原まつり)	昭和58年(1983年)	第1回大会より
ピースフルラブ・ロックフェスティバル	昭和58年(1983年)	第1回大会より
シーボートちゃんカーニバル	昭和62年(1987年)	第1回大会より
うるま市エイサーまつり	平成18年(2006年)	第1回大会より

写真提供 / 琉球新報社、沖縄タイムス社

2.地域社会と共に歩む

地域に寄り添って・・・



九州八県赤十字大会にて 金色有功章を受賞

平成29年度九州八県赤十字大会が11月16日宜野湾市の沖縄コンベンションセンター劇場棟で開催されました。式典では、日本赤十字社名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席のもと、赤十字事業に功労のあった法人として、当社も金色有功章を授けられました。



全肢連への支援活動

コカ・コーラシステムでは1980年より「一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会」(全肢連)と協定を結び、全肢連活動を充実させるための財源として、売り上げの一部が活動資金に運用される支援自動販売機の設置を推進しています。沖縄県肢体不自由児者父母の会連合会(沖肢連)の活動が発展していきますよう、同会と共に活動を支援しています。



清掃・地域活動への参加

広く市民に川の現状を知ってもらい、親しんでもらう機会として、浦添市が市民、事業者、民間団体と協働して、牧港川上流域の清掃活動を行っています。当社も社員が毎年参加し、汗を流しています。



地域イベントに参加!!

NAHAMARUNに挑戦



万座ハーリーに参戦!



中城小学校・幼稚園 津波避難訓練



インターンシップ(職場体験学習)

当社では、職場体験を通して若い世代が社会人としての素養を培う機会を提供するために、高校生を中心に、学生が企業で就業体験を行うインターンシップを受け入れています。



2012年より、中城小学校・幼稚園で合同の地震・津波発生を想定した避難訓練が継続して行われています。中城村が村内の小中学校に導入した地震や津波の緊急連絡システムを使った避難訓練で、警察・消防・教育委員会と合同で取り組んでいます。訓練では、津波が発生したと想定し、海拔47mの位置にある当社中部営業所の避難場所まで、全校児童が避難します。地元企業として今後も継続して協力していきます。

会社概要

社名	沖縄コカ・コーラボトリング株式会社 Okinawa Coca-Cola Bottling Co.,Ltd.
設立年月日	昭和 43 年 2 月 22 日
本社所在地	〒901-2555 沖縄県浦添市伊祖五丁目 14 番 1 号 TEL. 098-877-5255(代表) FAX. 098-879-4527
資本金	4 億円
販売地域	沖縄県
事業内容	コカ・コーラ等、清涼飲料水の製造販売
関係会社	株式会社 丸仁ホールディングス 株式会社 琉仁カスタマーサービス R E X 株式会社
	コールセンター(月～土 9:00～21:00) 代表問合 TEL. 098-877-5255 注文受付 TEL. 098-879-7172 修理受付 TEL. 098-879-9781 URL : http://www.okinawa.ccbc.co.jp

役員 (平成 30 年 9 月現在)

取締役会長	高橋 俊夫	取締役相談役	高梨 圭二
代表取締役社長	城 英俊	取締役	中野 泰三郎
取締役	城間 康範	監査役	田中 行雄
取締役	上村 行弘		
取締役	新井 英寿		

執行役員

常務執行役員	嘉陽 功	執行役員	加島 純
常務執行役員	水野 竜太	執行役員	新垣 勇
		執行役員	多和田 仁

【事業所】

- 浦添工場 TEL. 098-877-5891
沖縄県浦添市伊祖 5-14-1
- 機器サービス部 TEL. 098-949-7882
沖縄県南城市玉城字愛地 727

【営業所】

- 豊見城営業所 TEL. 098-850-1029
沖縄県豊見城市字我那覇 493
- 中部営業所 TEL. 098-895-5191
沖縄県中城村字屋宜 286
- 名護営業所 TEL. 0980-52-2255
沖縄県名護市大北 1-23-35
- うるま営業所 TEL. 098-965-7000
沖縄県うるま市石川伊波 1472
- チェーンストア営業所 TEL. 098-944-2011
沖縄県西原町字小那覇 343
- フードサービス営業所 TEL. 098-877-5373
沖縄県浦添市伊祖 5-14-1

【グループ会社】

- (株)琉仁カスタマーサービス TEL. 098-895-6045
沖縄県中城村字屋宜 286
- R E X(株) TEL. 098-942-7020
沖縄県浦添市伊祖 5-14-1



本社空撮(2017年12月撮影)

日本のコカ・コーラシステム

コカ・コーラシステムとは

日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発や広告などのマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売を行うボトラー社や関連会社などで構成されています。



**(株)コカ・コーラ
東京研究開発センター**
日本のコースに即した製品開発・技術サポート

日本のボトラー社



グループ会社紹介

株式会社 琉仁カスタマーサービス

自動販売機の 総合オペレーション企業を目指して

(人にやさしく、環境に優しく、地域と共に)

お客様の各種自動販売機を、弊社にて一括管理させて頂くことで管理業務を簡素化し、質の高いサービスと豊富な品揃えの商品をご提供いたします。

自動販売機に関するお客様のニーズにお応えします！

1つのメーカーに偏らず、
色々な商品を揃えて欲しいなあ



- コカ・コーラを中心に他社の売れ筋も買える自動販売機
- レギュラーコーヒーも楽しめるカップ自動販売機
- オフィスコーヒーサービス

軽食がとれる
自動販売機ってないかなあ...



- カップヌードル自動販売機
- カロリーメイト自動販売機



自動販売機の電気代・・・
もっと安くならないかなあ



- 収支データ分析による設置台数の集約のご提案
- 省エネ自動販売機のご提案

自販機に関する事務手続の簡素化、
防犯上、出入り業者を絞りたい



コカ・コーラグループならではのソリューションカ！
自販機の一元管理なら是非当社へ！



REX株式会社

信頼される 自動販売機オペレーターを目指して

沖縄コカ・コーラグループの一員として、自動販売機のオペレーション業務を通して、高い品質で効率的且つ、安定的な業務を行い、信頼される企業を目指します。

Coca-Cola ありがとう スカッとさわやか50年 そしてあしたへ

戦後間もない1946年、

ここ沖縄から日本のコカ・コーラの歴史がはじまりました。

時代の荒波にもまれ、

沖縄コカ・コーラボトリングが誕生したのは1968年・・・

県民の皆さまに支えられ、

2018年2月22日、おかげさまで創立50周年を迎えました。

沖縄とともに歩んだ、私たちの50年の足跡をご紹介します。



～創立者 故・高梨 仁三郎の想いを胸に～

1947年にコカ・コーラに出会い、コカ・コーラの歴史やフランチャイズ制・直販方式・現金取引など、問屋方式に踏襲しないこれまでの日本では考えられなかった斬新で革新的なシステムに着目し、導入を決意しました。10年に亘る交渉を経て、1957年日本で初めてコカ・コーラを製造、販売する事ができ、流通・販売の革命を起こしました。戦後の日本でコカ・コーラという製品を通して、文化に影響を与えた『日本のコカ・コーラ事業の父』故・高梨仁三郎は、「沖縄県の振興と雇用に貢献したい」という高い志を掲げ、弊社を設立致しました。

こみからの毒は
ひとによろこびをあなえ
後には幸福になることす
まきていければ
それかいうほんい
それほできると思ふ
だから
それをやろう
一緒にそれをやろう
高梨 仁三郎

高梨 仁三郎の想い(直筆)



「日本のコカ・コーラ事業の父」
高梨 仁三郎

50年のあゆみ — 1946年～1978年

<p>1946</p> <ul style="list-style-type: none"> ●CCEC中機工機建設(現:当社横浜工場) ●コカ・コーラレギュラーサイズ(原簿列)製造販売開始   <p>昭和25年頃</p>	<p>1946年 / 横浜工場建設</p>  <p>1946年 / CCEC中機工機建設</p>	<p>1951</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全国より6年早く国際博覧会名義社が民間向け販売開始 ●コカ・コーラレギュラーサイズ180mlビン 	<p>1951年 / 180mlビン</p>  <p>1951年 / 国際博覧会名義社が民間向け販売開始</p>	<p>1953</p> <ul style="list-style-type: none"> ●横浜市役所に国際博覧会の目ビル建設 	<p>1953年 / 国際博覧会目ビル建設</p>  <p>1953年 / 国際博覧会目ビル建設</p>	<p>1956</p> <ul style="list-style-type: none"> ●沖繩ソフトドリンクス設立翌年、国際博覧会を吸収合併 	<p>1956年 / 180mlのモーリス製造販売</p>  <p>1956年 / 沖繩ソフトドリンクス設立 会社本部に所属した従業員</p>	<p>1957</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファミリースイズ(770ml) 	<p>1957年 / ファミリースイズ(770ml)</p>  <p>1957年 / 新工場建築</p>	<p>1967</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業継承への第一歩を 知里ソフトドリンクスへ派遣(4名) ●コカ・コーラホームライス 500mlビン発売 ●新工場建築 	<p>1967年 / 新工場建築</p>  <p>1967年 / 知里ソフトドリンクスへ派遣(4名)</p>	<p>1968</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高松仁三部が継承を決定 (資本金50万ドル) ●沖繩コカ・コーラボトリング株式会社誕生 ●ボトラーズアグリメンツの獲得 ●初の消費者プロモーション実施 ●国内行事へ積極的な協賛開始 	<p>1968年 / コカ・コーラホームライス製造開始</p>  <p>1968年 / コカ・コーラホームライス製造開始</p>	<p>1969</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ビッグピッププロモーション展開 ●営業体制強化のため営業専用事務所設立 	<p>1969年 / ビッグピッププロモーション展開</p>  <p>1969年 / ビッグピッププロモーション展開</p>	<p>1970</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資本金100万ドルに増資 	<p>1970年 / 資本金100万ドルに増資</p>  <p>1970年 / 資本金100万ドルに増資</p>	<p>1971</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生産体制強化のためレギュラーサイズ ビンライン洗浄機とシロップストレージタンク2基設置 ●高松仁三部事務所開設 	<p>1971年 / 高松仁三部事務所開設</p>  <p>1971年 / 高松仁三部事務所開設</p>	<p>1972</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レギュラーサイズ、ホームサイズ専用機とストレージタンク2基設置 ●通貨交換により資本金100万ドルを3億500万円に増資 ●三本コカ・コーラボトラーズ会発足 ●当製品販別開始 ●コカ・コーラ250ml缶 ●ファンタグレープ250ml缶 ●ファンタオレンジ250ml缶 ●スプライト250ml缶 	<p>1972年 / 当製品販別開始</p>  <p>1972年 / 当製品販別開始</p>	<p>1973</p> <ul style="list-style-type: none"> ●印刷営業所開設(現:東京総営業所) 	<p>1973年 / 印刷営業所開設</p>  <p>1973年 / 印刷営業所開設</p>	<p>1974</p> <ul style="list-style-type: none"> ●通貨交換の増設 ●文芸弁論大会開始 	<p>1974年 / 通貨交換増設</p>  <p>1974年 / 通貨交換増設</p>	<p>1975</p> <ul style="list-style-type: none"> ●南洋等のため本部販営業所開設 	<p>1975年 / 本部販営業所開設</p>  <p>1975年 / 本部販営業所開設</p>	<p>1976</p> <ul style="list-style-type: none"> ●名産品営業所開設 	<p>1976年 / 名産品営業所開設</p>  <p>1976年 / 名産品営業所開設</p>	<p>1977</p> <ul style="list-style-type: none"> ●沖縄青少年協賛運動開始(協会発足) 	<p>1977年 / 沖縄青少年協賛運動開始</p>  <p>1977年 / 沖縄青少年協賛運動開始</p>	<p>1978</p> <ul style="list-style-type: none"> ●創立10周年 ●記念式典・祝賀会挙行政 	<p>1978年 / 創立10周年記念式典</p>  <p>1978年 / 創立10周年記念式典</p>
--	--	---	--	---	--	---	---	---	--	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	---	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

50年のあゆみ — 1979年～2001年

<ul style="list-style-type: none"> 1979 ● 生産設備工場の完成 1980 ● ILアイズ製造ライン完成 1981 ● コカ・コーラボストミックス、シロップタンク製品製造開始 ● 塚野に三條社長COE社より「日本のコカ・コーラ事業の創始者」の称号が贈られる 1982 ● パーキャピタ セールズ 全国1位 1983 ● 創立15周年 ● 経理山齊会社、沖繩カナダドライ(株)設立 [現:(株)塚田カスターマーサービス] ● 創立15周年記念式典挙行政 1984 ● 中城営業所開設[現:中城営業所] 1985 ● 阿波佐製造ライン設置 ● 完治目盛瓶 セールズコンテスト実施 1986 ● びんPET製造ライン完成 ● 果汁PET製造ライン新設 ● コカ・コーラ100周年記念アップサイズビール開催 1987 ● 総合営業所開設 ● ティー製品PET製造ライン設置 1988 ● 創立20周年 ● 創立20周年記念式典挙行政 1989 ● 第1回セールスコンベンション開催 	<ul style="list-style-type: none"> 1990 ● 新営業本部事務所新設 [現:管理本部] 1991 ● 玉城営業所開設[現:格闘サービス部] ● 那覇営業所を豊見城営業所に改称 1992 ● 25周年記念コカ・コーラ350ml缶 [「首直城上殿復活」] 1993 ● 創立25周年 ● 高梨に三郎 社長死去 ● 創立25周年記念式典 祝賀会挙行政 ● 中城コカ・コーラOB会結成 ● 那覇営業所フレンドシッププログラム導入 ● 那覇茶葉抽出機、圧着自動供給機、タンポール自動供給機設置 1994 ● 私たちの経営理念「フシタム、ガム」の成文化 ● 研修者訓練開始 1995 ● (株)塚田カスターマーサービスの全株式取得 ● 通信教育制度導入 ● 学費制度導入 1996 ● OCS事業開始 ● 規則規程の整備 ● キーストンプログラム導入 1997 ● 名譽営業所種替え ● 1.5L PET 8本詰めに変更 1998 ● 創立30周年 ● ILペットボトルにてコカ・コーラ350ml缶が30周年開催 ● 価格改定100円が5110円へ 1999 ● 業務センター配送センター新設 ● ジョージア/リトルライン新設 2000 ● 各営業所のOVM(ルート)をブロードサービス営業所へ移管 2001 ● 工場SO8011:POCO取得 ● 配送センター 新島完成
--	--



1981年/1982年コカ・コーラ事業の発展/専務を贈られた高梨に三郎



1983年/高城工場(15周年記念式典) [現:沖縄グランドキャスター(カスター)ビル]



1986年/阿波佐PET製造ライン



1987年/那覇営業所



1988年/創立20周年記念式典
[現:沖縄のランドキャスター(カスター)ビル]



1991年/玉城営業所



1995年/創立25周年記念式典(株)塚田カスターマーサービス [現:新島工場(高城工場)]



1998年/コカ・コーラ350PET缶30周年開催



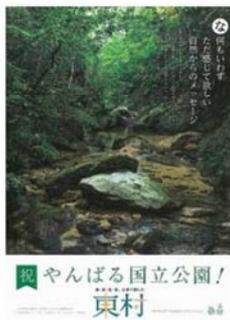
2001年/ISO 9001:2000取得

沖縄の魅力を発信！

観光ポスターギャラリー



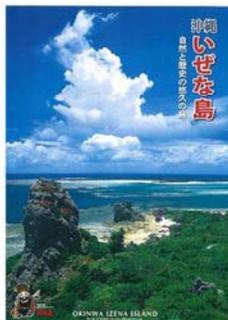
■OCVB



■東村



■本部町



■伊是名村



■伊平屋村



■国頭村



■大宜味村



■今帰仁村



■伊江村



■うるま市



■沖縄市



■北中城村



■宜野湾市



■西原町



■座間味村



■渡嘉敷村



■渡名喜村



■粟国村



■久米島町

●平成29年度 沖縄県入域観光客数

国内客	6,887,000人
外国客	2,692,000人
総合計	9,579,000人

出典/沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策課(平成30年4月)



■与那原町



■八重瀬町

好調な沖縄の観光産業は、県や自治体の皆さまと民間事業者の一体となった、誘客・受入の取り組みが支えています。弊社では、県内全域にさわやかさをお届けし、県内41市町村の活気あるまちづくりを応援しています。



■名護市



■恩納村



■読谷村



■嘉手納町



■北谷町



■宜野座村



■金武町



■中城村



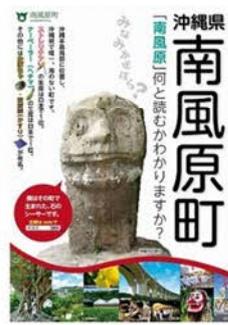
■浦添市



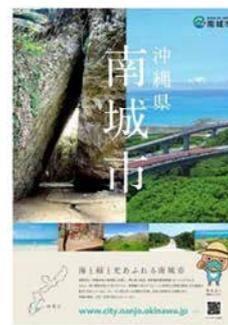
■那覇市



■豊見城市



■南風原町



■南城市



■糸満市



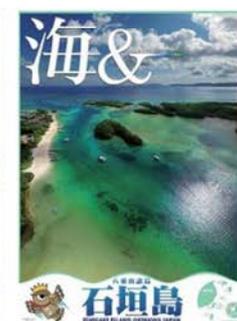
■南大東村



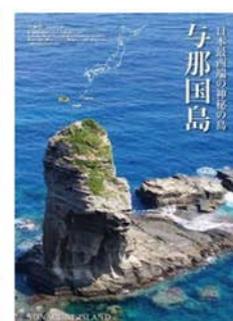
■宮古島市



■多良間村



■石垣市



■与那国町



■北大東村



■竹富町

このページは、沖縄観光コンベンションビューローならびに沖縄県41市町村・観光協会より画像提供を頂き、作成いたしました。ポスターの配列は順不同です。

Coca-Cola®

本レポートへのご意見・ご感想は下記までお寄せください。

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社(コカ・コーラ指定会社)総務部 CSR 推進課

〒901-2555 沖縄県浦添市伊祖五丁目 14 番 1 号
TEL. 098-877-5269 FAX. 098-877-5340



本冊子は環境に配慮し再生紙と植物油インキを使用しています。